

タイ研修報告書

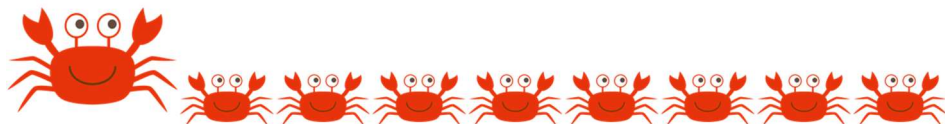
2023年1月16日～21日



《目次》

- ①研修スケジュール
- ②タイ基本情報
- ③自主研究報告

①研修スケジュール



日程	時間	活動内容	宿舎
2023/01/16	13:00	スワンナプーム・ドンムアン国際空港到着 ✈️	Vimandin
	20:00	カンチャナブリキャンパス到着	
2023/01/17	9:00-12:00	MESH 打ち合わせ マヒドン大学・寮見学	Vimandin
	14:00-15:00	サイヨーク国立公園見学	
	15:00-16:00	エレファントキャンプ体験 🐘	
	17:00-18:00	The Death Rail Way 見学	
2023/01/18	8:30	ラノーン県へ出発	Sook Hotel
	18:00	ビーチ散策	
2023/01/19	8:30-18:00	マングローブセンター、 クラブバンク、 ソフトシェルクラブ見学	Thirty Tree Garden House
2023/01/20	8:30-18:00	チュンボン県へ出発 PCR 検査 クラブバンク見学 🦀	The Palm Hotel
2023/01/21	午前	アユタヤ見学	
	午後	市内見学 スワンナプーム国際空港出発 ✈️	

▽キャンパス内のロッジでの



▽海沿いのレストラン



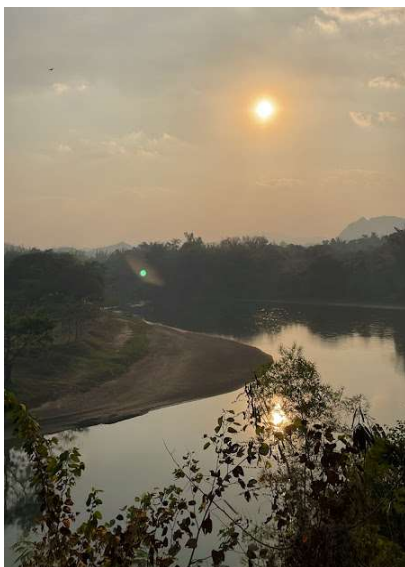
▽インスタ映え間違いなしなカフェでの朝食



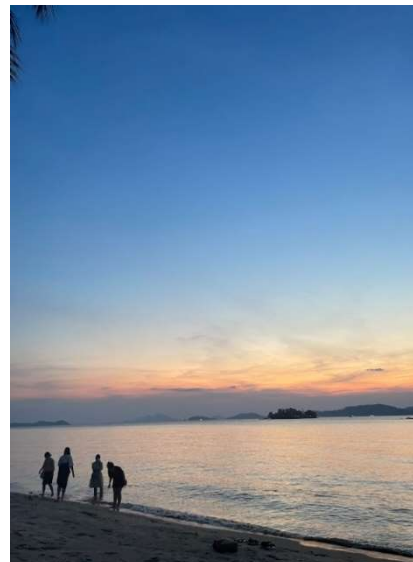
▽マングローブ見学



▽The Death Way からの景色



▽ビーチからの夕焼け



②タイ基本情報

- 1.面積:51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍)
- 2.人口:6,609万人(2022年)(タイ内務省)
- 3.首都:バンコク
- 4.民族:大多数がタイ族。その他華人、マレー族等
- 5.言語:タイ語
- 6.宗教:仏教 94%、イスラム教 5%
- 7.略史:タイ王国の基礎は13世紀のスコータイ王朝より築かれ、その後アユタヤ王朝(14~18世紀)、トンブリー王朝(1767~1782)を経て、現在のチャックリー王朝(1782~)に至る。1932年立憲革命。
- 8.GDP:4952億ドル(名目、2022年)
- 9.一人あたりGDP:7,089.7ドル(2022年、タイ国家経済社会開発委員会)
- 10.通貨:バーツ(baht)
- 11.国王:ラーマ9世
- 12.国旗:トン・トライロング(三色旗)
青→国王や王族一族
白→宗教
赤→国民
通常、公共の場やオフィス、学校などで、国歌と共に朝8時に掲揚され、夕方6時に貢納される。



【参考文献】

- ThaiSmile.jp(2023)「タイの基本情報」
<https://www.thaismile.jp/index1.html> (閲覧日 2023/03/30)

③自主研究報告

- 荒木和奏 「タイのクラブバンクについて」
- 香西香月 「タイにおける水環境の現状とその対策」
- 境杏璃 「タイの交通状況と交通法による対策」
- 田原加奈恵 「タイ珈琲生産の歴史」
- 平瀬夏鈴 「タイの野良犬」

タイのクラブバンク

荒木和奏

1. はじめに

2023年、1月19日(ラノー県)、20日(チュンポン県)にそれぞれクラブバンクを訪れ、現状や課題点について考える機会があった。そのことについて現状や課題を報告する。

2. クラブバンクとは

クラブバンクとは漁業者が抱卵中のメスのカニを捕獲して飼育し、生まれた幼生を生簀などで一定期間育てた後に海に放流し、カニの個体数を増やす資源管理手法である。多くの地域においてクラブバンクを始めるきっかけとしては、地元の漁業者らが海からとれるワタリガニやノコギリガザミの量が減少したと認知したことが発端であった。その問題を解決するために、地元の漁業者らと政府や NGO、大学、企業等を含む外部支援者が協力してカニの増殖活動としてクラブバンクが始動した。



写真1 クラブバンクの看板その1



写真2 抱卵カニ



写真3 クラブバンクの看板その2

3. タイのクラブバンクの現状

チュンポン県の訪問先では、浜のお母さんらが主体となってクラブバンクを組織化して2020年頃に活動を開始した。活動は4月から10月に保全活動を行っている。他の時期はモンスーン気候による影響や、クラゲ出現の影響で活動ができないという。漁業者らはクラブバンク活動を通してカニ保全の関心を高めるとともに、実際にカニ漁獲量が増えたという発言を聞くことができた。さらに、クラブバンク活動を通して、次世代の子どもたちへの教育にも力を入れていた。実際、高校生らがクラブバンクのサイトを訪問し、カニ減少の問題や活動紹介などを通して水産資源保全の必要性と行動の訴求を行っていた。

また、ラノー県ラノーンのクラブバンクでは、クラブバンク活動を運営するために必要な施設整備（タンク、エアーポンプ、パイプの他、太陽光発電装置の導入が望ましい）に対する初期投資は外部支援者からの支援金で用意されたが、維持管理についてはコミュニティの共同活動で得た利益を原資としてクラブバンク活動を続ける工夫がとられていた。

4. 課題とまとめ

今回訪問した2カ所のクラブバンクは共に精力的に抱卵カニの保護を行い、環境保全に貢献していた。一方、全てのクラブバンク活動が機能しているわけではないという。活動として成り立っていないサイトもあるという話も伺ったので、どのような違いがあるのか、対策は何をしたらいいのかを調査する必要がある。これらの活動は環境保全に役立っている。

タイにおける水環境の現状とその対策

香西香月

1. イントロダクション

タイは国全体に川が多く、水上マーケットは世界的に有名である一方、水上汚染や水不足に悩まされており政府はこれらの対策として様々な政策を行っていることを知った。そこで、今回のレポートでは今日のタイにおける水資源の現状とその対策について調査し、今後の展望について述べる。

2. 背景

タイは、2021年時点で人口6,617万人、面積は日本の約1.4倍の514,000㎡であり、世界で12番目に大きいと言われる国際河川のひとつ、メコン川をはじめとした約25の大河流域を持つ。さらに熱帯気候に属することから、豊かな水源に恵まれている(タイ内務省2021年)。しかしながら、近年の急激な人口増加と経済発展が原因で水資源が不足傾向にある。タイの水需要は1980年の205億3千万㎡から1990年には430億㎡に増加しているが、大規模な水処理施設の開発・メンテナンスが追いついていないことや水質汚染から水不足が深刻な問題となっている(インナー、2002年)。インナー(2002)によれば、世界銀行が刊行したタイ国環境報告書2001では、年間一人当たりの水の利用可能量は1,854㎡と当時のアジアワースト一位であったことが報告されている。さらに、1990年同国チェンマイ市の525の世帯に行った水質汚濁に関する意識調査では、行政担当者や政治家の関心の低さ、住民の無批判な生活スタイルの欧米化や環境汚染に対する意識の低さなどが浮き彫りにされた(河村1990年)。

3. 水に関する現状と対策

2016年時点、タイには101ヶ所の水処理施設がある一方、安全で清潔な水を利用するために年間約6億8,600万米ドルかかることから、メンテナンスや運営が経済的に厳しく、実際に十分な稼働ができている施設は88ヶ所のみである(外務省公害管理局2016年)。その為、バンコクでは家庭から排出される汚水の内、約55%がそのまま運河や川に放出されている。そこで現在、政府は水環境の改善の為様々な取り組みを行っている。それらの主な取り組みの一つ目は、『水資源マネジメント戦略2015-2026(WRMS)』である。水資源マネジメント戦略2015-2026(WRMS)とは、持続可能な開発目標のSDG6「水と衛生」の中で「2030年までにすべての人々に普遍的で公平に安全で廉価な水へのアクセスが可能になる」という目標を設定し、達成に向け2015年5月、国家水資源委員会と水資源マネジメント政策委員会共同の下制定され、①社会や経済に大きな影響を与える水資源問題の解決、②福祉の改善と水利用のための総合マネジメント、③持続可能な発展のために河川領域ごとの潜在

能力に応じた開発と水利用のバランスを創出することの三つの目標を柱に、現在・緊急(2015-2016)、近未来(2017-2021)、将来(2022-2026)の3時期に分けて計画されている(手計、2017年)。二つ目は、国家水センターの設立である。国家水センターを設立することで、国内の水資源に関するデータや情報を一元的に収集し、政策決定者や一般市民に適切な情報を渡す役割を担い、情報を可視化すること、予測や対応策の発展に期待できる(同上)。三つ目は、主要な河川流域や湖及び沿岸水域の水質監視である。チャオプラヤ川やターチン、メクロン、バンバコンなどの主要河川で DO(溶存酸素)、BOD(生物化学的酸素要求量)大腸菌群数など 20 項目に及ぶ指数に環境基準が定められ、定期的に測定されている。そのなかでも 1995 年時点、バンコク都内を貫流し最も水質汚濁が進んだチャオプラヤ川では、すべての項目において数値が悪く、魚の生息が不可能で工業用水としての利用に制約を受けるレベルであったことが判明した。このような水質汚濁を防ぐため、国は科学技術環境省(MOSTE:Ministry of Science Technology and Environment)の告示やバンコクの条例によって一定規模以上の建物に浄化槽の設置が義務付けられた。また、バンコクを中心に大規模下水処理場の整備を進め、1995年に経済的・効率的な排水処理施設の建設・運営を担う排水処理公社(WMA:Wastewater Management Authority)を発足した。これらの取り組みのほかにも、人々の環境に対する意識の向上と水質向上に係る資金を集めるため 2004年に住民や企業から汚水処理手数料を取る対策を提案し、現在実施に向け調査中である(JICA他2011年)。

4.まとめ

これらのことから、タイが水不足と言われるのには近年の人口増加と経済発展により、水の供給量が需要量に追いついていないことや水質汚濁が影響して安全な水が供給できていないこと、国民の環境意識の低さも問題になっていることがわかった。そして、国はこれらの課題の解決に向け様々な条例の制定や課税システムの導入の検討、環境基準値の設定などの様々な政策を行い、より豊かな水資源が得られるよう努力していることがわかった。

5.考察

今回タイの水環境について調査してみて、課題に対し様々な方向からアプローチをかけることで改善を図っていることがわかった。特に、人々の環境への意識を変えるという方法は、人口増加・経済発展にあるタイにおいてとても効果的だと考えた。そこで、排出した汚水の量から手数料を取る方法以外にも、もっと前向きに多くの人々が水環境について意識や考えを改めることができるような案がないか今後調査し検討したい。

参考文献

- 大垣真一郎(1985)「タイの水質汚濁」水質汚濁研究、第 8 巻、第 1 号、pp.23-25.
- 外務省(2022)「タイ王国基礎データ」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html>
(閲覧日 2024/2/23)
- 株式会社工業市場研究所(2016)「水上マーケットで有名なタイにおける水の問題」
<https://www.global-marketing-labo.jp/sp/column/?id=1528949999-148665>(閲覧日 2024/2/23).
- 河村清史(1990)「タイ国チェンマイ市の水質汚濁と研究協力事業」水質汚濁研究、第 13 巻、第 7 号、pp.416-419.
- 手計太一(2017)「タイ国の水資源政策の近況」水資源学会誌、第 30 巻、第 4 号、pp.237-240.
- 独立行政法人国際協力機構(JICA)・株式会社東京設計事務所(TEC)・日本工営株式会社(NK)(2011)「タイ国バンコク下水道整備事業準備調査 ファイナルレポート(Ⅱ)フィジビリティスタディ 第一巻要約」
https://openjicareport.jica.go.jp/618/618/618_122_12034526.html
(閲覧日 2024/2/23).
- ユワリ・インナー(2002)「タイ王国における最近の環境管理」埼玉県環境科学国際センター講演会要旨平成 14 年度、
<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/21750/15209.pdf>
(閲覧日 2024/2/23).

タイの交通状況と交通法による対策

境杏璃

1. イントロダクション

今回の研修を通してタイの交通状況を目の当たりにした。タイではシートベルトを着用していない運転手やウインカーを出さずに車線変更している車、車間距離の短い車、ヘルメットを装着していないバイクの運転手の姿が見られた。そこで、本レポートでは現在のタイの交通事故などの交通状況とタイ政府による対策について調査し、今後の展望を述べる。

2. タイの交通事故の現状

タイでは交通事故の多さが問題となっている。WHO(2022)の世界保健統計報告書によると、タイの2019年における人口10万人当たりの交通事故による死亡率は32.2%となった。一方で日本の値は3.6%となり、タイの交通事故による死亡率は日本のおよそ9倍となっている(WHO2022)。

MS&AD インターリスク総研株式会社(2019)のタイ交通事故統計をまとめたレポートによると、2017年に発生した交通事故の主な原因は危険な車線変更(18.4%)、スピード超過(16.3%)、あおり運転(15.3%)、道路のメンテナンス不足(14.6%)、ドライバーの運転不足(7.0%)であった。また、タイの道路ではオートバイが多く見られるが、車両種別による衝突事故件数はオートバイで37.4%であり、乗用車の28.4%の数値を超える一番多い結果となった。しかし、タイでの全国的なヘルメットの装着率は43%であり、半数以上がヘルメットを着けておらず、事故による負傷者は減少しないと考えられる。また、タイでは12月末から1月初めにかけての年末年始と4月中旬のタイの旧暦での新年であるソンクランの時期は「交通事故多発期間」と呼ばれ、多くのタイ人が旅行に行ったり、バンコクから他の都市へ多くの人が帰省したりするため交通事故が集中的に発生することが問題となっている。

3. タイの交通法による対策(Sangpolsit2022を基に整理)

タイ政府は2009年に採択されたモスクワ宣言において求められた交通事故の死者数を削減するための10年後の目標として、2020年までの10年間を「交通安全のための行動の10年」と位置付け、交通事故の死亡率を人口10万人あたり10人以下に削減するという目標を掲げた。また、交通事故削減のために全オートバイ運転者のヘルメット装着の推進や酒気帯び運転の削減、ドライバー行動の改善などの戦略的目標を挙げた。

また、2022年9月に道路交通法の改正を行った。主な内容としては、飲酒運転の厳罰化と他の交通違反についての罰金の大幅な引き上げである。飲酒運転の場合、1年以下の懲役または5千~2万バーツの罰金またはその両方が科される。さらに、2年以内に再犯した場合、2年以下の懲役と5万~10万バーツの罰金またはその両方が科せられる。改正前のスピード違

反、信号無視、歩行者いる横断歩道での不停止の罰金額は 1000 バーツ以下であったのに対し、4000 バーツ以下の罰金に改正。そして、逆走、駐車違反、ヘルメット未着用、シートベルト未着用の罰金額は 500 バーツ以下から、改正後は 2000 バーツ以下の罰金額となった。

4. まとめ

以上のとおり、タイ政府はタイ国内の交通事故の多さから「交通安全のための行動の 10 年」と位置付けた目標を掲げたり、道路交通法を改正したりと交通事故数減少に向けて様々な取り組みを行ってきた。最新の交通事故に関する数値は確認できないが、2019 年の時点で人口 10 万人あたり 32.2%が亡くなっていることからすれば、2020 年までに交通事故による死亡率を人口 10 万人あたり 10 人以下にするという目標を達成するのは容易ではないだろう。その数値目標の達成のためには罰則の強化など更なる道路交通法の改正や、ドライバーの意識の向上に向けた政策が求められるだろう。

また、Poothakool and Terdudomtham(2017)は交通安全に関わる行政機関が直面する問題や障害として、交通安全のための交通の予算がないこと、交通安全に関わる組織が政治レベルでも草の根レベルでも多すぎるために警察庁、高速道路会社省、運輸省などといったさまざまな交通管理機関の間で調整と統合の問題が生じていること、交通事故問題の解決に携わるほぼすべての機関や地方公共団体が全体的な計画や業務について限られた知識しか持っていないことを挙げた。このことから、ドライバーに働きかける対策だけでなく交通安全に関わる行政機関の問題についての解決も目指し、更なる交通事故対策の強化が必要になってくると考えられる。

参考文献

- Poothakool, K., Terdudomtham, Y. (2017) Policy proposal to solve road traffic accident in Thailand. Proceedings of 82nd The IRES International Conference, Rome, Italy (20th-21st September 2017), pp. 8-13.
- MS&AD インターリスク総研株式会社(2019)「InterRisk Thai Report」
https://www.irric.co.jp/pdf/risk_info/thailand/2019_04.pdf (閲 覧 日 2024/2/23).
- Sangpolsit, N. (2022) Stricter traffic laws in effect this week. National News Bureau of Thailand.
<https://thainews.prd.go.th/en/news/detail/TCATG22090416410306> (accessed on February 23 2024)
- WHO(2022) *World health statistics 2022: Monitoring health for the SDGs, Sustainable Development Goals*. Geneva: World Health Organization.

タイ珈琲生産の歴史

田原加奈恵

1. はじめに

タイ研修にて珈琲を飲む機会が多々あった。タイの珈琲は、日本のものと風味や味わいが違うと感じた。またお土産でも珈琲が多く販売されていたことから、タイでは珈琲栽培が盛んであることがわかった。そこで、どのように珈琲が生産されるようになったのか興味を持ったことから、本レポートではタイにおける珈琲生産の歴史について述べ、今後の珈琲生産の展望を述べる。

2. 現状

タイ北部に位置するチェンマイ市内の街中では、いたるところにカフェがあり、ほとんどの店が内装のデザインに凝っており、「北タイ産」「アラビカ 100%」「山地の少数民族が栽培した珈琲」など、各々が商品にさまざまなこだわりを持って経営されている(奥野 2020 年)。タイの人々はもともとコーヒーを飲む習慣はなかったが、2000 年初期から珈琲ブームが到来し、現在ではタイ国内の珈琲消費量は増えている(片倉他 2013 年)。一方、チェンマイ市内で珈琲栽培を行う少数民族アカの人々は、自らが生産している珈琲は口に合わない、全く飲まない人が多いという(奥野 2020 年)。

3. 歴史

タイ北部のコーヒー栽培は、故プミポン前国王(ラーマ 9 世)が王室プロジェクトの一環としてもたらしたものとされる。王室プロジェクトとは、1969 年、タイ北部の山間部で生活する山地民の生活の質を向上させるため、焼畑耕作による森林破壊問題を解決するためにケシ栽培に代わる商品作物を調査研究・奨励することを目的に、プミポン国王の意思と、その私財のもと立ち上げられたタイ山地民開発支援プロジェクトである。このプロジェクトは最初 5 年間に苗の配付・植え付けから収穫物の買い取りを行うもので、植えられた果樹類が収穫できるようになった段階でプロジェクトが終了した。そのため加工が必要な珈琲豆は活用されずに放置された。山地民にとって珈琲は未知の新規作物であり、加工方法がわからず、また農産物流通を仲買人に依存せざるをえず、販路の確保ができずに栽培を辞めてしまう人もいたが、2000 年初期の珈琲ブームにより生産を再開する人が増えた(片倉他 2013 年)。また、プミポン国王の母君が貧困救済を目的に設立した財団によって、1988 年にドイツ開発プロジェクトを始動した。これは、アヘンを栽培していた山間部の人々に、麻薬撲滅と少数民族の人たちの自立を目的としている。この活動が功を奏して、ドイツ珈琲はブランド豆として様々な地域で愛され、地域の人々の自立を成し遂げている(MI CAFETO2017 年)。

4. まとめ・考察

珈琲は基本的に植民地の歴史が関わっており、そこから繁栄することが多いが、タイにおいては地域の人々の経済的な自立を目的として栽培が開始されたことから、一般的な珈琲豆栽培の歴史と大きく異なることがわかった。しかし、王室プロジェクトでは住民に珈琲栽培の方法のみ伝授を行い、その後の加工方法や販売方法を確立させなかったことから、珈琲栽培において地域の人々の経済的な自立を促せたとは言えない点に留意が必要である。自らが手掛ける作物に対して、経済情報や加工方法を勉強し、栽培から販売までのルートを学ぶことによって、不正な搾取を防ぎ、経済的な自立を目的とした栽培が行えるだろう。また、フェアトレードの豆を選ぶことや、MI CAFETOのように豆の産地を記載し、さらにその歴史を共有している店を選ぶなど、消費者も購入時に考慮することが大切であると考えられる。

参考文献

- 奥野衣莉香(2020)「北タイ、山地の生活とグローバル化のダイナミクス—少数民族アカとコーヒーとの出会いを経て」アジア・アフリカ地域研究、第 19 巻、第 2 号、pp.254-258.
- 片倉芳雄・谷本寿男・押山正紀(2013)「北タイ・ノンタオ村のコーヒー栽培地の土壌改良にかかわる基礎調査」園芸文化、第 9 号、pp.45-67.
- MI CAFETO(2017)「ドイトウン、COFFEE HUNTERS、世界最高品質のコーヒーを」
<https://www.mi-cafeto.com/brand/coffeehunters/63>
(閲覧日 2024/2/23).

タイの野良犬

平瀬夏鈴

1. はじめに

タイでの移動中に気がついたことがある。それは、野良犬と出会う機会が日本と比べてとても多いということである。実際に研修中に出会った野良犬の写真を右に記載する。

The Department of Livestock Development(DLD)が発表したレポートによれば、2009年の犬の頭数はおよそ610万匹である。そのうち550万匹がペットとして飼われていて、60万匹は野良犬であるという



写真 目撃した野良犬(筆者撮影)

(ASEAN JAPAN2013)。本レポートでは、(1)なぜこれほどまでに野良犬が多いのか、(2)それに伴って人々にはどのような影響が存在しているのか、これら2点の問いについて調べた情報を基に私見を述べる。

2. タイにはなぜ野良犬が多いのか

タイにはなぜ野良犬が多いのか。それは、タイでは犬の殺処分が認められていないことが理由として挙げられる。この根本には、タイの上座部仏教の教えである、「命あるものを殺してはいけない」という不殺生(アヒンサー)がある。この教えに基づき、野良犬は施設で保護されているのである。ちなみに、日本は大乗仏教であり、同じ仏教ではあるものの、考え方に違う部分がある。この教えを説いていることから、仏教寺院は飼い犬を引き取ってほしいと言われると断ることができない。そのため、タイには長年、仏教寺院に犬を置いていく習慣があるという。日本では公園や路地に飼い犬を放置することがあるが、寺院が引き取ってくれるとなると、飼い犬を見捨てる人が多いのかもしれない。

3. 野良犬が多く存在することに対する問題点

野良犬は施設で保護されているが、保護だけでは追いついていないというのが現状である。また、保護された野良犬が劣悪な環境で喧嘩してしまい、死んでしまうというケースもある。2018年5月、狂犬病の大流行を防ぐために、ナコン・パノム州の政府シェルターに連れて行かれた3600匹のうち、2000匹以上が死亡したという事件が報告された。これらの隔離された犬のうち、2匹だけが狂犬病の検査で陽性であり、他の犬はその他の病気または他の犬から受けた怪我で死亡している(GLOBE2018)。

4. おわりに

タイの道中、至る場所に野良犬が多く散見された。安楽死を禁止するという考えは一見良いもののように思えるが、それによる問題点は多く存在している。動物の殺処分については日本でも度々問題視されているが、人間と同じく、動物も一つの大切な命として扱わなければならない。野良犬を産まない努力が必要であることを前提に、野良犬の処分をどうするべきか、議論が必要とされている。

参考文献

- ASEAN JAPAN (2013). 「タイのペット頭数」
<https://www.asean-j.net/17850/>(閲覧日 2024/2/23).
- GLOBE (2018) Thailand's Stray Dogs.
<https://southeastasiaglobe.com/saving-thailands-street-dogs>
(閲覧日 2024/2/23).